



◎常務理事送迎理事會

九月十三日新舊庶務部理事送迎の爲丸の内日本俱樂部に理事會を開く、宮崎理事差支來會せられざりしは遺憾なりしが、水野、内田正副會長、三邊、松木、中川、廣瀬、寛、牧の各理事清水幹事等出席せられ、會長より三邊常務理事を紹介次で清水道路課長を幹事に囑託の件を報告三邊常務理事の挨拶ありたり、席上松木、中川兩理事の發議により交通會議設置建議の件及鐵道と自動車道路關係調査の件につき出席役員並に鐵道關係當局中可然向へ委員囑託の件を決定せり。

◎調査委員會

九月二十日本會調査委員會を開會水野會長、内田、青木、三邊、中川(内務技監)前川、久保田、黒河内、廣瀬、橋本、松木、中川(正左氏)中野、牧野各委員出席内田氏を委員長に推し會議に入り理事會決定に依る建議案につき審議を経たるを以て九月二十六日關係當局へ左の建議をなしたり。

建議書

陸上ニ於ケル將來ノ交通政策ハ鐵道ト道路トナ綜合統一スルヲ以テ根幹トセサルヘカラス從テ官私鐵道ノ敷設ト道路ノ新設改良トハ其間ノ利害得失ニ付先以テ慎重ナル調査ヲ遂ケスル後之カ實行ヲ爲スヘキモノト認ム然ルニ現行行政ノ運用ハ如上ノ趣旨ニ副ハサルノ憾アリ仍テ政府ハ兩者行政ノ連絡ヲ圖ルカ爲ニ交通會議ヲ設ケ内閣ニ直屬セシメ汎ク交通ニ關スル學識經驗アル者ヲ以テ議員トシ鐵道及道路ノ計畫其他陸上交通ニ關スル重要事項ヲ擧ケテ之ニ諮詢セラレムコトヲ望ム

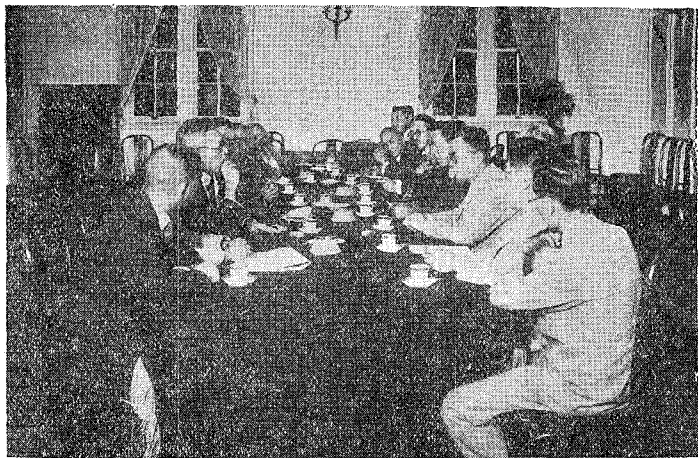
右理事會ノ決議ヲ經茲ニ及建議候也

昭和四年九月二十六日

會長

### ◎中川理事送別會

中川正左氏は産業合理化聯盟のメンバーと共に其のリーダーとなり、約二月の豫定を以て十月一日横濱解纜の商船アリゾナ丸に乘船渡米せらる、出發に先ち送別の爲九月二十八日日本俱樂部に理事會を開く、主賓中川理事、水野、内田正副會長、三邊、山田兩常務理事、松木、長岡、寛、牧の各理事出席あり然るに内田副會長も貴族院議員の方々と共に近く渡支せらるゝとありて當席は幸爾兩氏送別理事會に擴張、會長兩氏の爲一同と共に乾杯、中川氏の挨拶、内田副會長本會の爲に一同と共に乾杯等ありたり。



### ◎調査委員會

鐵道と自動車道路に關する調査委員會を九月三十日開會、内田副會長、三邊、廣瀬、中川(内務技監)物部、橋本、松木、久保田、黒河内、寛、牧各委員出席、内田副會長差支退席に依り橋本氏を委員長に推し會議に入り調査綱目選定の爲三邊、松木、寛、黒河内四氏を小委員に囑託其の會合期日を十月三日に決定せり。

### ◎囑託小阪登君の榮轉

本會囑託小阪登君は今回地方事務官となつて熊本縣へ榮轉した、氏は大正十一年あの關東大震災火災の終了したとき、廣島縣屬から内務屬として土木局道路課

日本俱樂部に於ける本會常務理事送迎理事會

に入り、公務の餘暇本會々務を援助した外日本大學法科に  
學び、一昨年高文試験に合格して、今回の榮轉を見るに至  
つたのである。

氏が今日の榮轉を見るに至る迄には随分人知れぬ苦勞を  
した、廣島師範を卒業してから暫く小學校に教鞭を採つて  
ゐたが、廣島縣學務課に入つて教育行政の實際に携るにつ  
れ、何でも文官として身を立つには高文試験をパスせなけ  
ればならぬ、夫れに就ては廣島縣に居ては駄目だと遂に意  
を決して東上したのは齡三十四、のときであつた、日本大  
學の老書生としては未だ若い方だが、田舎に居れば可い親  
父として暮らせるものを初一念を貫く爲に苦學した殊に震  
災直後の内務省は火事場と同じやうなもので、雜務ばかり  
で落ちついて仕事することを許さない状態であつたに不  
拘、氏は政々として擔任事務を研究し措置したことは同僚  
の感服してゐるところである殊に其の多忙を顧みず本會々  
務を助けて呉れた、田中幹事の如きは所謂書き放しの原稿  
を氏に與へて整理して貰つたものだ、其の勞苦に對して本

會は深甚の敬意を表する。

任地熊本縣は政争激甚の地として定評のある所である  
が、君の人格と手腕を以てしては問題は無からう、小島幹  
事のものした詩を送つて、君の榮轉を祝する。(た)

送小阪君赴肥州

颯々金風萬頃秋 研精成業熟西疇

阿蘇深溪白河邊 明月玲瓏映玉樓